

MJサイエンス

全国高等学校総合文化祭自然科学部門

令和元年7月26日(金)～7月29日(月) 佐賀大学本庄キャンパス

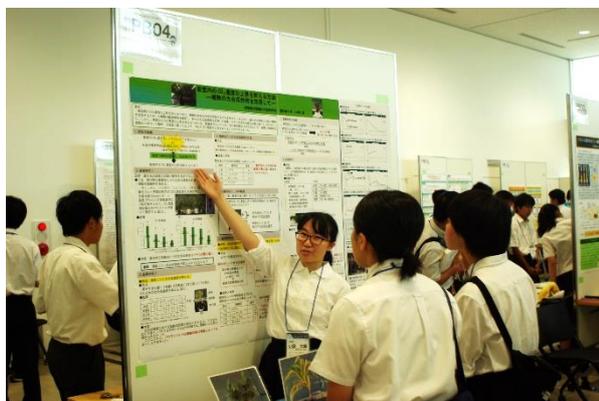
「さが総文」自然科学部門、ポスター部門にて、本校理科部（3年1名）が、「教室内のCO₂濃度の上昇を抑える方法～植物の光合成作用を利用して～」という研究テーマでポスター（パネル）発表を行いました。ポスター発表は分野を問わず、各都道府県から選抜された40校が、文部科学大臣賞獲得を目指してしのぎを削りました。

1日目は、開会式の後約6時間にも及ぶ発表時間があり、その間中、本校の発表の前では聴衆の波は途切れることなく、発表者はほとんど休憩もとらずに一人で発表をし続けました。その間に審査員による2回の審査があり、この審査の結果と、事前提出の論文、また他校の生徒投票も加味されて採点が行われました。

2日目は、午前中の研究発表の後、巡検研修が行われました。巡検研修は、11の分野から1つの分野を選択し参加するもので、本校は「“やきもの”のサイエンス」に参加し、陶器と磁器との違いを学んだり、ガラスの破片を炉で溶かしアクセサリを作ったりといった研修を行いました。

3日目は、記念講演会があり、113番目の元素「ニホニウム」を発見、命名した九州大学の森田浩介教授の講演を聴きました。その後、表彰式がありましたが、今回は残念ながら入賞を逃してしまいました。しかし、他校の生徒の投票では、「しっかりした基礎研究で学ぶところが多かった。」、「発表に対する熱意が伝わってきた。」、「身近な問題を研究テーマとして選んでいて、とてもわかりやすい発表だった。」など、研究内容や発表態度に対して賞賛の意見がたくさん寄せられました。

今回は残念ながら入賞を逃しましたが、発表者は持てる力のすべてを出し切り、自らの研究内容や成果をたくさんの人々に伝えることができましたようです。



ポスター発表



審査員による審査



巡検研修での実習



会場前にて